自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で考えた理念を玄関と各ユニットに掲示し、共有することで実践に繋がるよう努めている	グループホームとして発足し、その後2ユニットに増築するときに職員で話し合い、事業所理念を見直した。「安・楽・感・輪」を決め、来園者・家族・利用者・職員等、カラー色合いも検討し、目の付きやすいよう入り口箇所に掲示し、常にその理念を確認している。今回の外部評価には、職員全員で評価票に記入することで、理念の共有と日々のケアの振り返りが確認が出来るよう実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスの影響で地域や学校行事に参加できなかった。感染症の影響がなくなったら以前のように、行事に参加するなど交流したい。	職場体験の中学生来園や小学校の運動会見学など様々な交流を続けていたが、コロナ禍の現在、地域の交流は自粛することが多かった。毎年地域の小学生が、学習の一環として田植えをし育てた糯米を届けてもらうなど交流を深めている。利用者は「おはぎ」や「炊き込みご飯」など希望され、美味しくいただくなど会える機会を楽しみにしている。また、事業所では町内会費を納めており、区長の方には運営推進会議にも参加してもらっている。外灯の交換や木の伐採等、協力をいただきながら地域の方との交流を、今できる形で続けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルスで地域に向けた行事が開催できなかったが、区長とのつながりを持ち、広報誌を地域に回覧して活動を発信した。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルスにて、構成員の方々に2か月に1回の書面で活動報告を行い、ご意見をいただくようになっている。また、会議録を提示、家族にも配布し、取り組みや現況を知らせ、意見をいただけるようになっている。	コロナ禍の現在ではあるが、定期的開催された記録は残されている。メンバーから意見をいただき、書面での活動報告、会議録等は運営推進会議参加予定者や全家族にも配布を行っている。玄関内の見えやすい場所に「運営推進会議綴り」や「外部評価結果」「広報誌綴り」などを掲示し、訪問者や面会者など誰でも見ることができるよう可視化しており、誰からでも意見をいただけるよう配慮している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	村上市の介護高齢室と荒川支所から運営推進員として参加いただいている。日頃より活動状況や問題点など伝え、意見やアドバイスをいただいている。	今年度は市内グループホームで開催されていた集まりや行事なども少なく、市町村との直接交流は開催されなかったが、何か問題が出来た時は相談出来るよう行政機関との協力関係は得られている。特に近くの荒川支所とは運営推進会議のメンバーにもなってもらっており助言やアドバイスをいただいている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止の資料を掲示している。また、オンデマンド研修等で身体拘束について学び、職員会議等で身体拘束しないケアに取り組んでいる。	身体拘束のマニュアルが整備されている。法人のオンデマンド研修を職員は全員受けており、受けた記録や感想を可視化出来るようにファイルしている。法人作成の初任者・中堅者・管理職等一人一人の職員ごとに研修カリキュラムがあり、職員会議でも内容を取り入れ身体拘束しないケアを確認している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	オンデマンド研修等で虐待防止を学び、虐待防止に努めている。また、管理者、職員が協力し合い、利用者の状態だけでなく、職員の様子も情報共有し、職員同士で声を掛け合い虐待防止に努めている。	虐待防止に関するマニュアルが整備され、外部の講師による研修も開催されている。管理者は長い自粛期間の中で、利用者や家族が考えているような家族との面会や外出等の交流が行えていないこと、職員とのハイキングや買い物が十分行えないことなどに苦慮している。車の中からのドライブ等での対応の現状から、外との関わりの少なさが、わずかながら、利用者のレベル低下や利用者・職員共に小さなストレスを感じている可能性を危惧している。そうした中でも日々のケアの中での「指示的、命令的な言葉使い」等、虐待が見逃されることが無いように声掛け会いながらの支援に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現入居者様に成年後見制度の対象の方はいないが、専門分野に繋ぐことができるよう研修やオンデマンド研修で学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明を行っている。内容に変更があった場合は書面にてお知らせし、疑問点があれば説明を行い、変更に関しての署名捺印をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見や要望は日頃の会話の中で汲み取ったり、聞き取ったりしている。家族には「家族への手紙」で様子を毎月伝え、来園時や電話などで、ご意見をいただけるよう、話しやすい環境を作るように努めている。	利用者や家族からの意見や思いを出来るだけ汲み取れるよう職員との会話にも力を入れている。家族には広報誌を2ヶ月1回、「家族への手紙」は毎月送付している。自粛期間は風除室越しではあるが、希望に添った時間で面会出来るよう工夫している。電話や写真でも様子を伝えているが、今年は誕生会の様子を「ライン」で直接に送ったり、動いている様子を動画で送り喜ばれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の意見出しシートを活用、職員会議などで検討し運営に反映している。また、職員会議や日頃の会話や申し送りの活用でも意見を出し合い検討している。	毎月職員は「意見出しシート」で意見を提出しており、自分たちの意見や提案が出しやすいと感じている。今年は暑い季節の間動きやすい服装の意見が出て、管理者は本部の戦略会議に提案し夏用Tシャツを採用されたり、利用者の入浴時間を検討したりと職員の意見を出し合い協議検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	代表者は会議を通して施設や職員の様子を把握できるように努めている。また、職員の働く環境整備に力を入れており、職員からの要望も聞いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修やオンデマンド研修を提供し、職員の質の向上に努めている。また、資格手当の拡充と資格取得に向けての支援を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH管理者の意見交換会、荒川地区の同業者の連絡会の参加し情報交換を行っていたが、コロナの影響でできていないため、電話などで相談しあうなど情報交換を行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前訪問や面談で、家族、ケアマネから情報を収集し、入居の際には、ご家族に「暮らしの情報」を記入していただき、ご本人にも望むことや困っていることを伺いながら、安心していただけるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前訪問や面談等で、家族の不安や疑問を傾聴し、家族も安心できるように説明することにより関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思いや状況を確認し、支援の提案を行っている。また、ケアマネ、利用されていた事業所から情報を収集し、初期の段階でどのような支援が必要なのか検討し対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の状態を見ながら、ホームで役割を持って生活できるよう考え支援している。また、他者と支えあい暮らしていける関係を築けるよう支援している。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、家族に写真を添えて様子を伝える手紙を送り、変化があった場合は電話で様子を伝えている。コロナウィルスの影響で、家族との行事が行えないため、オンラインや窓越しの面会の対応を行っている。	お盆の外泊や外出を楽しみにしている方も多くおられ、日頃から時間を工夫され気軽に会いに来てくれる家族や親戚近所の方もおられたが、コロナ禍の現在、電話、毎月の手紙や写真等を送り、面会時間や場所の工夫をすることで、本人と家族の関係を大切にしている。また、受診時の同行支援をお願いする場合もあるし、誕生日等動画等で様子を知らせるなど、支え合う関係性を大切にしている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や親族との関係性を継続できるよう、来訪や外出時の支援を行っていたが、現在ではできていない。	自宅や馴染みの場所に事業所の車で出かけ、家やお墓の周りをドライブし安心される方もおられる。グループホームとして、今迄力を入れてきた色々な機会や楽しみが難しい世の中の状況となっているが、管理者はじめ職員は「外食気分の思い出テイクアウト」や庭の畑のサツマイモ等「みんなで手づくりおやつ作り」等、工夫しながら関係継続の支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの関係性を考えての食事席の配慮や皆さんと一緒に楽しめる時間作り、関係作りの支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後にも相談や訪問に来ていただけるように声掛けを行っている。また、外出先で出会った際には声を掛け合う関係性を大切にしている。大雪の時には除雪に駆けつけてくださった。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中や会話の中で本人の希望や思いを聞き逃さないよう心掛けている。本人から聞き取りが困難な場合は家族からも伺うようにしている。	入所時や事前訪問の時に家族に書いてもらう「暮らしの情報・意向意見録」など、家族からの情報は大切にしている。担当ケアマネジャーからの情報・サービス利用の経過等も記録に入れ、入居後は、日々利用者との関わりや会話の中で、利用者本人からの言葉やしぐさから思いを汲み取りながら、本人の意向や好きなことなど聞き漏らさないよう声掛けし、把握に努めている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前訪問と担当ケアマネから情報を収集し、入居時にご家族から「暮らしの情報」の提供で把握に努めまた、日々の関わりの中で本人に伺うなどしている。	入所時に家族から聞いたり書いてもらった「暮らしの情報」や、担当だったケアマネジャーからの話や記録から、今迄の生活の暮らし方などの情報を汲み取り、まずは好きなことや興味がある事などを話題にして把握し、一日のすごし方など無理のない、馴染みのある生活への支援に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態を日々観察し、変化がみられる場合には、申し送り簿や口頭の申し送りで情報を共有し、その都度対応できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員がモニタリングを行っている。見直しの際には、本人、家族の意向を確認しながら、職員からも意見を出してもらい計画を作成している。	入所前の担当者からの情報を基に、本人や家族の意向を確認しケアプランを作成し、2週間後、1ヶ月、3ヶ月、6ヶ月後と定期的にモニタリングを行っている。利用者の心身状況に沿った介護計画となるよう、プランに関するモニタリング総括評価表により関係者と検討し作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日頃の記録、申し送りや、個別の情報ノートで情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度変わる状況に応じて、できる限り柔軟な対応ができるよう考えながら支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加や祭り行事の訪問をうけたり、地域の小中学校と交流を図るなどの交流行っていたが、現在は行えないので、市報や小学校だよりの配布を届けてくださっている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	嘱託医による月2回の往診があり、専門医の受診が必要な場合は家族に連絡をとり受診できるよう支援している。また、馴染みのかかりつけ医に受診されるときは、情報提供を行って、いただいた情報でケアに努めている。	本人や家族の希望によるかかりつけ医受診を希望する利用者は、家族が同行できない場合は看護師が同行し、情報提供や記録面で支援している。入所時に訪問医療契約についてを説明をし、介護度に変化があった場合は、嘱託医による月2回の訪問診療に変更出来ることを説明している。申し送りなどで職員間でも情報共有し医療面での支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が主となって利用者の健康状態を把握して管理している。介護職は日常の関わりの変化や気づきを速やかに報告し、早期発見と適切な処置や受診に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には施設での状態を情報提供し、退院前カンファレンスに参加し退院後もスムーズに施設へ戻れるような配慮を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族に終末期をどのように過ごしたいか、どのようなケアを望んでいるか意向を伺い、嘱託医と面談していただき、施設で出来ることを伝え理解した上でケアに取り組んでいる。	重度化や終末期のあり方については入所時に利用者や家族の意向を確認している。利用時にリスク説明書により、利用者の状態に急変が起こる場合もあることを理解してもらっている。過去に看取りの経験もあり看護師から看取り期に関する情報を事前に得ていて落ち着いて心穏やかに見送ることもできた。隣接の特養との協力体制が図られている。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時について研修等を行い対応している。看護師、嘱託医へ24時間連絡がとれる体制になっている。救急情報シートの用意と夜間はベル番体制と隣接施設との協力体制を整えている。	緊急時の対応について各種マニュアルが整備されており、救急情報シートやベル番体制を取り、応急手当普及員による全職員への知識や技術が習得されている。今年度においては救急法の研修も今後予定している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施、隣接の施設と共同の災害時の避難訓練も行い、地域の防災訓練にも参加している。	火災や自然災害を想定し、年2回昼夜の避難訓練を実施している。隣接の特養との連携で協力体制が取れている。地域の防災訓練にも以前は利用者も一緒に参加していたが、今年度は縮小した形で行われ事業所の職員が参加している。災害時の備蓄管理も図られている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊厳や人格を大切に、その時に応じた声掛けに対応できるように研修を受け、プライバシーに配慮した対応に努めている。	プライバシーに関する研修がオンデマンドで行われ、研修報告などを職員間で共有し、声掛けのタイミングや言葉使いなど常に工夫をしながら対応している。浴室などはカーテンを二重にするなど工夫をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望を尊重し、日々の関わりの中で、本人の希望があれば実現できるようにサポートしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの要望や状態に合わせて、その人のペースで過ごされている。職員の体制や行事などで希望に添えない時は説明をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出張理容や馴染みの理美容の外出支援を行っている。外出時には衣類を一緒に選ぶなど、おしゃれができるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を利用した献立を考え、利用者からの希望をメニューに取り入れ、献立メニューは壁に貼っている。職員も一緒に会話しながら食事をしている。食事の準備や後片付けなど、できることに参加していただいている。	以前は給食委員が居て事業所で食事づくりをしていたが、利用者へのより良いケアの提供を優先するため、今後は外部からの食材で温めて提供することになった。おやつや行事食などで工夫して利用者と一緒に作ったり、好みの献立を提供できるよう支援していく。準備や片付けなどは利用者と共に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量、水分量をチェックしている。一人ひとりの状態に応じて食事形態を変えたり、好みの飲み物を提供して水分補給に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と毎食後に口腔ケアをしていただき、不十分なところを職員が支援している。夕食後に義歯を預かり消毒洗浄を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの状態に合わせて、その方のペースに合わせて声掛けを行い誘導している。	日中は食事の前後など定期的に声掛けや誘導をし、ほとんどの利用者がトイレでの排泄ができています。夜間帯も時間を見てトイレ誘導をしています。排便状況により水分補給やゼリーなど工夫して排便を促している。朝食後に風邪予防のための飲料なども提供しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取に気を付け、排便に繋がる食品を取り入れた献立や乳製品、お茶など提供している。また、運動を取り入れることもしている。必要時には内服薬等で調整している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本週3回の入浴の提供を行っている。一般浴が困難な方には特浴で対応している。	利用者ほぼ全員が週3回の入浴ができている。一般浴や特浴により利用者の身体状況に応じた方法で、入浴剤や好みの道具を使って入浴を楽しむことができるよう支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望や体調に応じて、日中でも居室やリビングのソファで休んでもらう。夜間は、室温・照明など調節し安眠できるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各個人の処方箋をファイルしてあり、一人ひとりの薬ケースで管理している。服薬時には名前を読み上げ内服の確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好みや能力に応じた作業を提供し、尊厳や感謝の気持ちを言葉で伝えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	季節を感じていただける場所や自宅周辺にドライブなど気分転換を図り、今の状況でできる限りの対応を考え行っている。	コロナ禍により日常的な外出はできない状況ではあるが、受診時に少し時間に余裕を持たせて利用者の希望に沿って海を見たり自宅近くを周回するなど、また家族の年忌等のための外出も希望を叶えるなどして、事業所としてできることを支援している。事業所周辺の散歩や事業所内のベランダや廊下などでの日光浴など対応に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段の金銭管理は職員が行っているが、外出の際には買い物ができるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人からの電話を取り次いだり、希望時には電話を掛けられるよう配慮している。郵便物を本人に渡し、返事を出せるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた飾りをしたり、外の景色や花、鳥の声などで季節の移り変わりを感じていただくことができる。季節の花を提供し活かしていただいている。	各ユニット壁面に手作りのシンボルツリーのような大きな木が貼ってあり、春には桜、秋にはモミジや栗の木というように、季節ごとに利用者と一緒に花びらやモミジの葉っぱ、栗の実などを作り飾り付けをしている。居間や食堂は明るく静かで落ち着いて生活ができる環境となっている。廊下にはたくさんの写真が貼られ利用者の日々が笑顔でいっぱいである。温かくて家庭的な雰囲気で居心地の良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや廊下のソファや椅子で、気の合った同士で会話したり、思い思いに過ごされている。事務所前にはお地蔵様があり、前を通るときにはお参りをされ頭をなでていられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族の要望に応じて馴染みの家具や小物を自由に持ち込んでいただいて居心地の良い居室作りを支援している。	居室は職員による掃除が行き届いており清潔感が感じられる。利用者の好みでベッドの方や畳で生活されている方も居られる。家具などは馴染みのものを持ち込まれているが、収納もあり安全に同線が取れるように工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所の認識ができるように貼り紙をしたり、本人のできることをしていただけるよう声掛け支援している。		